

業績の概要

国内医薬品業界におきましては、後発品使用促進策の進展など医療費全体の抑制を目的とした諸施策が一層浸透するなか、国内外の企業間競争が一段と激化するなど、市場環境は厳しさを増しています。

このような状況のもと、当社は独創的な新薬開発を目指し、研究開発体制の一層の強化と主要製品を中心とした学術情報活動の充実を図るとともに、経営全般にわたり効率化に努めました結果、当第2四半期累計期間の業績は以下の様になりました。

売上高	671億8千4百万円 (対前年同期比 1.8%増)
営業利益	223億8千2百万円 (対前年同期比 8.1%増)
経常利益	241億7百万円 (対前年同期比 7.2%増)
四半期純利益	159億1千4百万円 (対前年同期比 14.6%増)

●売上高

前年同期比11億円(1.8%)増の671億円

主要製品の売上ですが、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」は、腰部脊柱管狭窄症の適応領域で使用拡大がさらに進み、前年同期比16億円(8.5%)増の208億円となりました。また、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」は、引き続き積極的な情報提供活動に努めました結果、前年同期比5億円(4.8%)増の111億円となりました。さらに一昨年6月に発売しました過活動膀胱治療剤「ステープラ錠」は、当該市場での育成が着実に進み前年同期比12億円増の18億円となりました。なお、本年4月に新発売しました骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」の売上は2億円でした。

一方、糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」は、引き続き潜在市場の開拓活動を積極的に進めましたが、後発品の影響などにより、前年同期比4億円(5.5%)減

の77億円となりました。また、気管支喘息（小児）治療剤「オノンドライシロップ」は、競合品との競争激化の影響などにより前年同期比1億円（3.5%）減の37億円となりました。

●営業利益

前年同期比16億円（8.1%）増の223億円

売上高が前年同期比11億円（1.8%）増の671億円となり、売上原価が前年同期比3億円（3.1%）減の99億円、販売費及び一般管理費が前年同期比1億円（0.5%）減の348億円となりました結果、営業利益は前年同期比16億円（8.1%）増の223億円となりました。

なお、販売費及び一般管理費のうち、研究開発費につきましては、前年同期比7億円（4.4%）増の187億円となりました。

また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は、経費の効率化に努めました結果、前年同期比9億円（5.5%）減の161億円となりました。

●経常利益

前年同期比16億円（7.2%）増の241億円

営業外収支が前年同期とほぼ同額の17億円となりましたので、経常利益は前年同期比16億円（7.2%）増の241億円となりました。

●四半期純利益

前年同期比20億円（14.6%）増の159億円

前年同期の特別損益は、特別利益として投資有価証券売却益13億円を計上した一方で、特別損失として投資有価証券評価損12億円を計上したことにより、差し引き1億円の利益でしたが、当第2四半期累計期間には、特別利益として、過年度研究開発費の戻入益2億円を計上したことなどから、利益が前年同期比1億円増加しました。

また、今期から、試験研究費の税額控除の上限が拡大されたこともあり、税金費用が前年同期比2億円減少しました。

以上の結果、四半期純利益は前年同期

比20億円(14.6%)増の159億円となりました。

財政状態

(資産、負債及び純資産の状況)

総資産は、前連結会計年度末に比べ145億円増加して4,357億円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ48億円増加して1,854億円となりました。これは、現金及び預金が15億円、売上債権が55億円それぞれ減少した一方で、有価証券が82億円、たな卸資産が33億円それぞれ増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ96億円増加して2,503億円となりました。これは、投資有価証券が117億円増加したことなどによります。

負債は、前連結会計年度末に比べ12億円減少して300億円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ157億円増加して4,057億円となりました。剰余

金の配当金の支払97億円がありましたが、一方で、第2四半期純利益の計上159億円、その他有価証券評価差額金の増加93億円があったことなどによります。

(連結キャッシュ・フローの状況)

営業活動により獲得したキャッシュ・フローは、172億円の収入(前年同期比21億円収入の増加)となりました。主な内訳としては、法人税等の支払額93億円があった一方で、税金等調整前四半期純利益243億円を計上したことがありました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、141億円の収入(前年同期比176億円収入の減少)となりました。主な内訳としては、有価証券及び投資有価証券の取得による支出があったものの、売却・償還等による収入があり、差し引き158億円の収入となったこと、有形固定資産の取得による支出12億円がありました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、97億円の支出(前年同期比294億円支出の

(資産、負債及び純資産の状況)

	前連結会計年度末 平成21年3月31日現在	当第2四半期末 平成21年9月30日現在	増減
総資産	4,212億8千万円	4,357億8千3百万円	145億2百万円
純資産	3,900億4千1百万円	4,057億5千9百万円	157億1千8百万円
自己資本比率	91.8%	92.3%	—
1株当たり純資産	3,555.54円	3,698.81円	143.27円

(連結キャッシュ・フローの状況)

	前第2四半期累計期間 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日	当第2四半期累計期間 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日	増 減
現金及び現金同等物の期首残高	474億3千3百万円	534億6千万円	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	150億9千6百万円	172億7千4百万円	21億7千8百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	317億7千4百万円	141億5千2百万円	△176億2千2百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	△392億2千9百万円	△97億8千6百万円	294億4千3百万円
換算差額	△3千5百万円	6千4百万円	9千9百万円
増減	76億5百万円	217億5百万円	—
現金及び現金同等物の 四半期末残高	550億3千9百万円	751億6千6百万円	—

減少)となりました。主な内訳としては、配当金の支払額97億円がありました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期末残高は、前連結会計年度末に比べて217億円増加し、751億円となりました。

通期の見通し

売上高	1,379億円 (対前期比 1.0%増)
営業利益	405億円 (対前期比 6.8%減)
経常利益	429億円 (対前期比 8.2%減)
当期純利益	283億円 (対前期比 19.1%増)

●売上高

1,379億円 前期比1.0%増(20年度1,365億円)

本年4月に新発売しました骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」や、既存の主力製品

である末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」、過活動膀胱治療剤「ステープラ錠」、手術時および手術後の頰脈性不整脈治療剤「注射用オノアクト」等で売上拡大を図るものの、後発品の普及が一層進むことによる影響などで、売上高は前期比13億円(1.0%)の増加に留まる見込みです。

●営業利益

405億円 前期比6.8%減(20年度434億円)

売上高を前期比13億円(1.0%)増の1,379億円と見込む一方で、売上原価を前期比5億円(2.7%)増の219億円、販売費及び一般管理費を前期比37億円(5.2%)増の755億円と見込むことにより、営業利益は前期比29億円(6.8%)減の405億円を予想しています。

なお、販売費及び一般管理費のうち、研究開発費につきましては、引き続き積極的に国内外で研究開発活動を推進することから、前期比24億円(6.3%)増の408億円となる見込みです。

また、研究開発費を除く販売費及び一

般管理費は、前期から13億円(4.0%)増の347億円になる見込みです。

●経常利益

429億円 前期比8.2%減(20年度467億円)

金利低下による運用収入の減少もあり、営業外収支が前期比8億円減少すると見込まれることから、経常利益は前期比38億円(8.2%)減の429億円を予想しています。

●当期純利益

283億円 前期比19.1%増(20年度237億円)

特別損益については、前期に計上した投資有価証券売却益13億円や投資有価証券評価損78億円に相当する損益を22年3月期は想定しないことなどから、前期比66億円損失が減少する見込みです。

また、今期から、試験研究費の総額に係る税額控除額の上限が拡大され税負担が減少するため、当期純利益は前期比45億円(19.1%)増の283億円を予想しています。

連結決算報告（財務諸表）

連結貸借対照表の要旨

（単位：百万円）

科目	期別	
	前期	当第2四半期
	平成21年3月31日現在	平成21年9月30日現在

(資産の部)		
流動資産	180,556	185,427
現金・預金	14,102	12,581
受取手形・売掛金	39,480	33,907
有価証券	102,908	111,114
たな卸資産	10,058	13,413
その他	14,016	14,418
貸倒引当金	△ 9	△ 8
固定資産	240,723	250,355
有形固定資産	50,540	50,490
建物・構築物	24,334	23,527
土地	22,539	22,539
その他	3,666	4,423
無形固定資産	1,032	1,048
投資その他の資産	189,150	198,817
投資有価証券	178,333	190,061
その他	10,818	8,757
貸倒引当金	△ 1	△ 1
資産合計	421,280	435,783

（単位：百万円）

科目	期別	
	前期	当第2四半期
	平成21年3月31日現在	平成21年9月30日現在

(負債及び純資産の部)		
流動負債	25,459	26,798
支払手形・買掛金	3,423	6,248
短期借入金	1	1
未払法人税等	9,130	8,070
引当金	5,110	4,947
その他	7,794	7,530
固定負債	5,779	3,225
長期借入金	15	14
引当金	2,239	141
その他	3,523	3,068
負債合計	31,239	30,023
株主資本	393,578	399,699
資本金	17,358	17,358
資本剰余金	17,079	17,079
利益剰余金	422,565	428,692
自己株式	△ 63,425	△ 63,431
評価・換算差額等	△ 6,956	2,495
その他有価証券評価差額金	2,170	11,554
土地再評価差額金	△ 8,922	△ 8,922
為替換算調整勘定	△ 203	△ 135
少数株主持分	3,419	3,564
純資産合計	390,041	405,759
負債及び純資産合計	421,280	435,783

連結損益計算書の要旨 (単位：百万円)

科目	期別	
	前第2四半期 累計期間 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日	当第2四半期 累計期間 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日
売上高	65,993	67,184
売上原価	10,282	9,962
売上総利益	55,711	57,221
販売費及び一般管理費 (研究開発費)	35,000 (17,932)	34,838 (18,717)
営業利益	20,711	22,382
営業外収益	2,044	1,883
営業外費用	277	158
経常利益	22,478	24,107
特別利益	1,296	238
特別損失	1,225	31
税金等調整前四半期純利益	22,549	24,313
法人税等	8,511	8,264
少数株主利益	155	135
四半期純利益	13,883	15,914

前第2四半期
累計期間
125円00銭

当第2四半期
累計期間
146円35銭

(注) 1株当たり四半期純利益

連結株主資本等変動計算書の要旨 (単位：百万円)

科目	期別		
	前期 平成21年3月31日現在	変動額	当第2四半期 平成21年9月30日現在
資本金	17,358	—	17,358
資本剰余金	17,079	—	17,079
利益剰余金(注)	422,565	6,127	428,692
自己株式	△ 63,425	△ 6	△ 63,431
株主資本合計	393,578	6,121	399,699
その他有価証券評価差額金	2,170	9,383	11,554
土地再評価差額金	△ 8,922	—	△ 8,922
為替換算調整勘定	△ 203	68	△ 135
評価・換算差額等合計	△ 6,956	9,451	2,495
少数株主持分	3,419	145	3,564
純資産合計	390,041	15,718	405,759

(注) 利益剰余金の変動要因

四半期純利益 15,914百万円
剰余金の配当 △9,786百万円